

結城北部の活性化と茨城デスティネーションキャンペーンについて

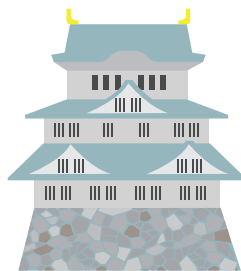
国内最大の観光キャンペーン（茨城DC）が本県で21年ぶりに開催されたが本市の取組について。

経済環境部長 きものday 結城、水戸線地酒列車の運行等の誘客イベントや、着地型旅行商品「結城縁旅」の売り出し等を行った。

観光客の定着と観光型店舗の拡大を図り、地域経済の発展の足掛かりとなることを目指していく。

観光産業の発展が市民の生活を豊かにするはず。そのためには、街のシンボルであるランドマークが必要。道の駅の機能、避難所の機能、歴史ミュージアムの機能を有した結城城の再興を目玉に、東結城駅周辺や北部市街地を活性化すべきと考えるが市長の見解は。

市長 本市独自の観光資源は豊富にあると認識している。一方で、観光誘客の目玉となる拠点施設がないことも事実。北部市街地の活性化のためには、拠点となりうる施設の整備も必要である。地域の皆様の意見を伺いながら検討したい。



教職員の働き方改革の進捗状況について

本市では教育現場の何をどのように変えようとして取り組んでいるのか。

教育部長 小学校では、専科教員の配置や教育課程の工夫による交換授業等により、教職員の空き時間の確保に努め、中学校では、部活動複数顧問体制及び土日どちらかを休養日とすることを徹底している。

令和7年度への決意は。

教育長 教職員と子供たちの健康を守ることが働き方改革の基盤であり、教育長としての最大の責務。働き方改革から働きがい改革へとステップアップし、健康で幸せに過ごせる学校を目指して全力で取り組む。

そのほか、小学校廃校後の跡地活用について質問し、住民の不安への回答を市長に求めました。

北部の復活と活性化へ舵を！ 「結城城」の再興こそ起爆剤

埋蔵金伝説は儲けの糸口
ドラマやCMの舞台化も



沼田 育男
(ぬまた やすお)

録画映像
はこちら

